

学生はこのまちで何を感じ、何を夢みるか

大学生活は、その後の人生を左右する学問や人など、出会いに満ちた貴重な時間です。理科大生はどんな思いを抱いて入学したのか。このまちで何を学び、どんな夢を描いているのか。市内出身、県内出身、県外出身。それぞれ育ってきた環境が違う3人にインタビューをしてみました。

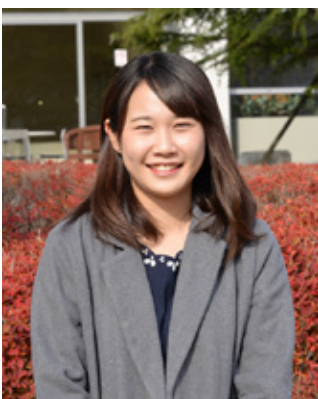


杉田 智哉

機械工学科 4年
山口県山陽小野田市出身

サッカーの盛んなこのまちが大好きです

物心ついた時から車が好きで、大学では自動車の研究がしたいと考えていました。そんなとき、大学のパンフレットでロードスターの開発に携わっていた貴島先生が理科大にいらっやると知り、他の大学は受験せずに、理科大に入学し、念願だった貴島研究室に入ることができました。研究室では、フォーミュラカーを使った実験など、自動車工学を学んでいます。地元である山陽小野田市には、住みやすいという印象を持っています。古くからの友人も多く、何より小学生からずっと続けているサッカーが盛んなまちで、天然芝の県立おのだサッカー交流公園などもあり、環境が充実していて、今はプレーするだけではなく、コーチとして子どもたちにサッカーを教えています。就職は、インターンシップで自分を快く受け入れてくれた地元企業に決めました。開発の仕事に携わることができればと思っています。僕はこのまちが大好きです。大学生活を通じて得た友人やサッカーの教え子たちなど、様々なつながりを大切に、これからも生まれ育ったこのまちを盛り上げていきたいです。



小田 歩佳

応用化学科 1年
山口県萩市出身



あこがれの先生のような教師を目指して

理科大を受験しようと思ったのは、県内にあること、今年度から公立化すること、また夏のオープンキャンパスに参加し、雰囲気良かったことがきっかけです。理系が好きになったのは、高校のときに習った女性の理科の先生の影響。その先生の授業がとても楽しかったので、いつしか私のあこがれの存在になりました。そんな素敵な理科の先生になりたいという思いを実現させるため、教員免許を取ることもできる理科大を選びました。今、私は教育研究サークルに入り、スクールボランティアとして週に2回、市内の小学校で、授業のサポートをしたり、子どもたちと一緒に遊んだりしています。貴重な経験をさせていただき、心から感謝しています。このまちで暮らし始めて9か月が経ち、少しずつ山陽小野田市での生活にも慣れてきました。まだ1年生なので、今は基礎をしっかり学び、どんな研究をしたいか早めに準備をしていきたいです。これからも、あこがれの先生のような教師になるという夢を追いかけ、このまちで、学業やアルバイト、サークル活動などいろいろな経験を積んでいきます。